

通信・IT ネットワークの分野では、日々新しい技術が開発され、より効率的で、より安価なサービスが次々と生み出されています。知らないことは、イコール企業利益の損失です。そこで私たち大和電設工業は、情報通信やITソリューションの『知って得する最新情報』を、お世話になっている皆様に定期的にお伝えしていきます。隔月発刊のDDK通信、ぜひお楽しみください。

マスクする？しない？

職場で、ウィルス感染症対策について感覚の違いを感じたことはありませんか？ オフィスで過ごす中で、同僚や上司、部下の行動に対して「ウィルスを気にしなすぎだ」と思ったり、逆に「ウィルスを気にしすぎ」と思ったり、多くの人がこういった

経験があるのではないのでしょうか。

感染症対策との共存が始まって2年が経ちましたが、今も根強く残っている「他者との感覚差」について今回は考えてみたいと思います。

職場で感じる感染症対策の感覚の違い

旅行や外出を	控える・控えない
飲み会に参加	する・しない
マスク会食を	する・しない
マスクを	常にする・人と話す時だけする

職場で感じる感染症対策の感覚の違いにはどのようなものがあるのでしょうか。例えば、上記のような事柄で感覚の違いを感じたことはないでしょうか。新型コロナウイルスはまだまだ終息の兆しが見えず、感染症対策がさらに長期化することで、個人の意識や行動は以前と比べると個人差が広がっています。

感染症対策の意識が高い人にとっては、職場でマスクを外して話す人や人的距離間をとらない人と共に過ごすのはストレスが溜まるでしょうし、逆に感染症対策をそこまで意識しない人にとっては、最低限のマナーを守っているつもりなのに指摘されればストレスを感じてしまうでしょう。実際、職場では**8割以上の人**が、こういった感染症対策の感覚の違いから生じるストレスを感じているそうです。

マスクは常に必要？ 対面して喋らなければ必要ない？

職場で最も感じる感染症対策の感覚の違いは「マスク着用の有無」という結果が出ています。「飛沫を防ぐためにマスクは常に必要」という意見と、「喋らなければ必要ない」という意見で分かれ、マスクに対する意識は職場で大きな問題になりえます。

例えば、オフィスでパソコンに向かってWeb会議に参加しているとき、マスクを着用したまま参加する人と、マスクを外して参加する人がいるのではないのでしょうか。

既に広く知られている通り、マスク着用で100%感染を防げるわけではありませんが、「しないより、した方が良い」とことは明確です。マスク着用の最大の目的は、「もし自身が感染していた場合、他者にうつさないため」であります。ですので、「マスクをしたくないからしない」という理由で着用しないのであれば、それは上司なり組織なりが注意をするべきでしょう。

ですが、個人の意識とは別に、業務上そうはいかない場合もあるのではないのでしょうか。

ICT 機器の活用

職場の安全性を害さないよう配慮した行動をとるためには、オフィス環境の見直しが不可欠です。

「マスクをせずに電話応対をしたい」「Web会議で発表したい」というシーンでは、オフィス内のどこでもパソコン・電話機を使える環境が必要です。

電話機にLANケーブルを繋いでどこでも利用できるIP多機能電話機にすれば、密集する自席から離れ、最大限安全な場所を選んで電話応対ができるようになります。

また、お客様とのWeb会議は盛んになりましたが、社内では相変わらず集合ミーティングが絶えません。机の上の電話を活用してWEB会議ができるとしたら、社内の会議もオンライン化できることが期待できるのではないのでしょうか。オフィス環境を見直す場合に、ICT機器の活用もぜひ検討してみてください。

